



2024年度

# 事業報告書

社会福祉法人よつかいどう福祉会



# 目次

はじめに	・・・	2-4
01   生活介護はちみつ		
▪ ホーム活動	1- 春のいろ	・・・ 5,6
	2- 虹のもと	・・・ 7,8
	3- 花あかり	・・・ 9,10
	4- 黒のビロード	・・・ 11,12
▪ 生産活動	1-タートルズ（木工・箒班）	・・・ 13,14
	2-クレインズ（織物班）	・・・ 15,16
	3-ゴーツ（清掃班）	・・・ 17,18
▪ サークル	造形/スポーツ/カラオケ	・・・ 19-21
▪ 行事報告		・・・ 21-23
▪ 健康管理		・・・ 23,24
02   四街道市福祉作業所		・・・ 25,26
▪ 健康管理		・・・ 27
03   CCC（地域貢献事業部）		・・・ 28-31
04   相談支援事業所 あわい		・・・ 31,32
05   職員研修		・・・ 32-34
06   利用状況		・・・ 35
07   2024年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会事業計画		・・・ 36
08   2024年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会事業報告		・・・ 37-40



# はじめに

社会福祉法人よつかいどう福祉会  
理事長 金室 修平

令和6年度は、『四街道市福祉作業所』の運営開始、『グループホームはにかむ』の建設、四街道工業団地を舞台にした『よつかいどうユニバーサル工業フェスタ2024』の開催など、難しいことにも粘り強く挑戦し頑張った一年となりました。



## ○四街道市福祉作業所について

令和6年4月1日より、社会福祉法人よつかいどう福祉会が、四街道市社会福祉協議会に代わり、四街道市福祉作業所の指定管理を始めました。開所当初は、仲間たちにも戸惑いがあったかと思います。しかし、徐々に笑顔が見受けられ、今では毎日笑い声が絶えない素敵な作業所となっております。今年度は、定員28名中16名のスタートでしたが、一年を通して仲間たちとの別れや新しい出会いそして、十数年ぶりの再会もありました。作業所では、月曜日から木曜日まで仕事をしております。金曜日は、余暇活動として、調理や、外出、レクリエーション、創作活動などの様々な活動をおこなっています。私たち職員が意識をしなくても、自分たちでメリハリをもって過ごしている仲間たちに逞しさを感じております。仲間のことを思いやって発言してくれたり、重いものを持ってあげたり、自然に周りを楽にしてあげる(側楽)姿が見られる仲間たちは、本当に素敵です。作業所では、これまでおこなってきた仕事や余暇活動を継続しながら、さらに地域との繋がりがもてるよう取り組みました。同法人の生活介護はちみつと合同でイベントに参加したり、また一緒にイベントを企画したりと、一年を通して楽しく過ごせたように思います。農福(ノウフク)連携にも挑戦し、工賃アップにも繋がっております。4月から振り返ってみると、前年度よりも増員して17名の在籍者数となりました。

## ○生活介護はちみつについて

生活介護はちみつは、皆様からのご支援、ご協力もあり、おかげさまで8周年を迎えました。8年前に開所し、18歳で通所し始めた仲間たちも、26歳を迎えます。(当然、私たちも同じように歳をとっております。この間、法人はNPO法人から社会福祉法人へと変わり、古民家から鉄骨造りの施設へと移りました。グループホームの建設、運営については、毎年のように事業報告に記述しておりました。やっと、昨年の6月に入り、念願のグループホームはにかむの建設がはじまり、昨年末に無事竣工し、令和7年4月1日から開所致します。この日が迎えられたのも、これまで多くの方から、ご支援やご協力を賜ったおかげであると思っております。この場をお借りして、感謝申し上げます。



近年、四街道市でもグループホームがたくさんできています。しかし、まだまだ、グループホームが必要な方たちは多くいらっしゃいます。当法人を利用する仲間たちの状況も進んでおり、8050問題から、9060問題へと移行してきております。はにかむの開所はゴールではなく、スタートだと考えております。これから、グループホーム「○○○・○○○○」など、次のグループホームの計画と準備を進めて参りたいと思います。

### ○地域貢献事業について

四街道市物井には工業団地があります。その工業団地周辺には、もねの里という住宅街ができ、多くの住民、とりわけ子育て世代が多く住んでおります。工業団地側としては騒音や匂いといった苦情がでるのではないかと不安があったようです。そんな相談が当法人にあり、私たちはこれを地域貢献ができるチャンスと捉え、『よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024』を企画、開催致しました。実施には、四街道市コラボ助成金事業を申請致しました。物井・もねの里に住む方たちだけではなく、千代田やその近隣の方たちからも多くの協力を得たことによって、盛大なイベントとして開催できたのだと思います。私たちが地域貢献と思っておこなったイベントでしたが、実は私たちが地域の方たちに支えられてできたのだと改めて感じさせられました。ご協力して下さいました皆様方、本当にありがとうございました。詳しくは、このあとの CCC（地域貢献事業部）で記述させていただきます。

### ○事業報告について

今年度の事業報告は、ホームは「スポットライト」をテーマに報告させていただきます。仲間への支援において、得意なところに目を向けて、苦手なところに手をあてることや、一日一回主人公になるなど、仲間へのスポットライトは日常の支援において、欠かせないものです。そんな「スポットライト」があたる場面をどのように創っているのか、またどのように工夫し、取り組むことで仲間一人ひとりが手ごたえを感じているのかなど、エピソードを交えて報告させていただきます。生産活動では、「<sup>はたらく</sup>側楽仲間たち」というテーマで報告させていただきます。

毎年になります。事業報告を作成するにあたり、職員一人ひとりが、仲間たちの素敵な一面を振り返り、共に過ごしたエピソードを、改めて噛み締めることができいております。そんな素敵な日常を創ってくれた仲間たちをはじめ、ご家族の皆様方、ボランティアさんと地域の方々、そして四街道市など多くの方々を支えていただきました。心から感謝申し上げます。これからも引き続き、ご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

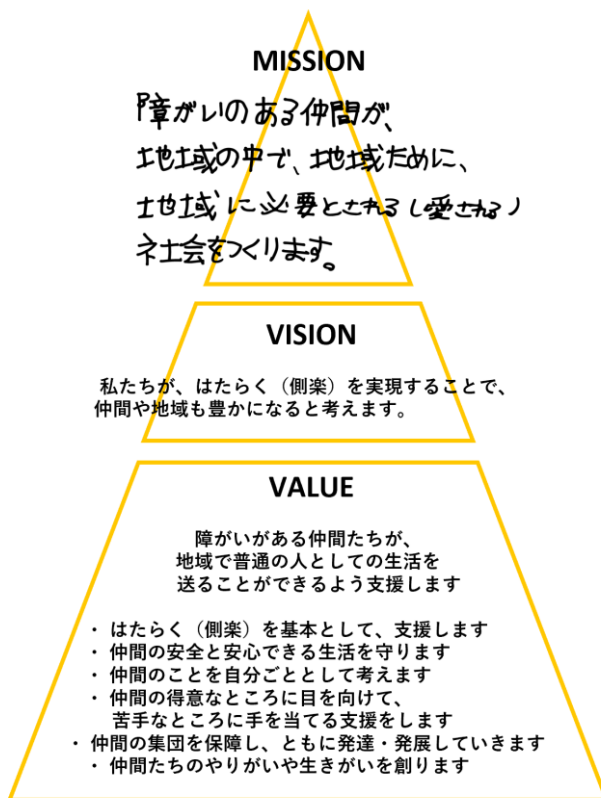
### ○法人理念（ミッション・ビジョン・バリュー）について

特定非営利活動法人はちみつから引き継ぎ掲げていた法人理念を、改めて整理させていただきました。今年度に入り、法人職員も 40 名を超えました。理念を明確にし、研修などを通して共有することで、職員一人ひとりの理解が深まったように思います。よつかいどう福祉会の職員集団が、仲間一人ひとりのことを真剣に考え、支援をすることができるよう引き続き共通理解と実践を深めていけたらと考えております（図 1）。

また、法人の方針として、人材の育成を視野に入れた法人運営を今年度から意識し取り組み始めました。当法人は、若い職員が多く在籍しております。仲間への支援や福祉の魅力、これからの福祉の在り方など、時代が変わっても大切なこともあれば、変えていかなければいけないものもごございます。今こそ、学んでいかなければならないと思っております。人を育てるということは、簡単なことではないとは思いますが、質の高い支援や、人として素晴らしい人材を創っていけるよう取り組んでいきたいと思っております。

常に成長し続けることが望まれる社会ですが、成長する過程には、時には立ち止まって力を溜める期間も必要であります。来年度は、その力を溜めることを大切にしていきたいと考えております。私たちは、四街道という地域を、地域の皆さま方と一緒に創っていきたく思い「はちみつ」という名前にしました。まちづくりを考えると福祉にたどり着き、福祉を考えるとまちづくりにいきつくように、私たちの活動や存在がまちづくりに寄与できるよう引き続き取り組んでいきたいと思っております。

法人理念（図1）



○広報誌について

社会福祉法人よつかいどう福祉会が、誕生してから3年になります。これまでは、毎年事業報告やぶんぶん（地域福祉情報冊子）、お便りなどは発刊しておりましたが、広報誌については発刊していませんでした。今年度から広報誌「らふてる」を発刊致しました。年2回発刊致します。社会福祉法人よつかいどう福祉会は、生活介護はちみつをはじめとする複数の事業を展開しております。「らふてる」では、そんな事業所の仲間たちの笑顔や頑張り、素敵な姿などを楽しくお伝えできればと思っております。



# 01 | 生活介護はちみつ

## ・ホーム活動

### 1-春のいろ

堀 柊人 横瀬 さち 北林 智子 沼澤 明姫 飯野 洋平  
岩館 和大 塚本 優実 高杉 和明 清水 さやか



春のいろは、10名(男性6名女性4名)の仲間たちでスタートしました。今年度も「健康維持大作戦!」と「個から広げよう 集団の輪」という2つの重点目標を掲げていました昨年度から始めた朝のウォーキングに継続して取り組み、毎日の運動が定着してきています。また、ホームでの役割を一人ひとりが認識し始めており、集団を

意識して生活することができている場面が多くみられました。

そんな春のいろの仲間たちの素敵なエピソードをご紹介します。

#### No.1 個から集団へ

Aさんは工作好きでとても器用です。そして、好きなことをしているときの集中力はピカイチ。力持ちで重い物も軽々運ぶことができるなど素敵どころがたくさんある仲間です。

しかし、最近のAさんは、ホーム活動へ積極的に参加する姿が少なくなっていました。どうしたらAさんがわくわくして自分からやってみたい!!と思えるような魅力ある活動ができるだろうと話し合いをしました。その結果、AさんのためのAさんによるAさんの好きなことが詰まっているピザ窯作りが始まりました。

レンガの組み方について説明を受けるとAさんは、すぐに理解して始めました。重いレンガですが、Aさんは表情1つ変えずに積み重ねていきます。Aさんの頑張る様子を見て、他の仲間たちも次々と作業に参加し始めました。仲間がレンガを運んで渡し、Aさんが積み重ねていきます。春のいろ全員で力を合わせたことであっという間にはちみつにピザ窯が出来上がりました。みんなで協力して作った窯で焼いたピザは格別な味で、とてもよい表情をして食べていました。



ピザ窯作りは、レンガを買う→レンガを組む→ピザを作る→ピザを食べるというAさんが見通しを持つことのできる取り組みでした。見通しを持つことができたため、Aさんはピザを食べる目的を達成するまで春のいろの仲間を引っ張る存在になれたと思っています。また、他の仲間たちが次々にレンガを組み始めたのは、Aさんの頑張りが伝わったのだと考えています。ピザ窯作りを通して春のいろの輪が広がっていき、より一層団結力が高まっていききました。



## No.2 隊長！

ピザ釜が完成したため、新たに「ピザの具作り隊」が始動しました。その隊長として任命されたのは、B さんでした。B さんは、記憶力が抜群で、少しの変化にもよく気がつく方です。

ピザの具作り隊の隊長に任命された B さん。隊長の役割として毎日野菜に水をあげるという仕事ことができました。B さんは、やる気満々の様子です。登所して支度が終わると、ジョウロを準備して毎日欠かさず水やりをしました。毎日の水やりのおかげで野菜に実がつき、いよいよ収穫できる日がやってきました。収穫するとホームにいる仲間や職員に野菜を見せにきてくれました。仲間や職員から「毎日水やりしてくれてありがとう！」「B さんのおかげで野菜ができたよ！」と声をかけられるとニコツとして嬉しそうな表情を見せていました。



この取り組みを通して B さんは、苗が伸びたり、実の色がついたり水やりをすることで変化を見ることができました。水やりを頑張ると成果がでるため、B さんは日々手応えを感じることができていたと思います。また、隊長に任命されたため、自分が頑張らないといけないという責任感も生まれました。野菜を収穫し、隊長としての任務を果たすことができ達成感も得られたと思います。

## No.3 失敗は成功のもと！

ホームでは月に 1 度調理の時間があります。調理と聞くと材料を切ったり、混ぜたりすることを想像するかと思います。調理には、他にも欠かせないことがあります。それを率先してやってくれる仲間のエピソードを紹介いたします。

C さんは、積極的に材料を計量したり、混ぜたりと色々な作業を行っていました。材料を混ぜていた時に少しこぼしてしまい、「失敗しちゃった」と表情が曇っていました。落ち込む C さんに「洗い物をしてみますか？」と別の作業を提案してみました。すると、A さんは、快く引き受けてくれました。スポンジで丁寧に食器を擦って、汚れを落とします。「洗えました！」と職員を呼び、OK サインをもらおうと嬉しそうにしており、C さんには笑顔が戻っていました。次の調理から「洗う物ありますか」と自分から尋ねてくるようになりました。



C さんは、洗い物で手応えを感じられたのだと思います。失敗すると悪い方向に考えてしまいがちですが、そうではありません。失敗があったからこそ、洗い物ができたという成功体験につながり、C さんは輝くことができました。

### まとめ

今年度を振り返ると、仲間たちの素敵な場面や成長する姿があったと感じています。特にピザ釜のエピソードは、今年度の目標を象徴するものだと思います。初めは中心になっている人は 1 人でしたが、最終的には集団につながり、協調性がより一層高まったと感じています。仲間同士の助け合いはとても素敵なことです。そのような機会が増えるように、来年度も仲間たち 1 人 1 人が輝ける場を作り、そこから集団の輪につながるようにしていきたいと考えています。健康維持については、引き続きの課題として毎朝のウォーキングを続けていきたいと思っています。



## 2-虹のもと

渡邊 京子 本田 郷士 村島 友里絵 鈴木 尚子 梅田 かおる  
高橋 美紀 河野 佐知子 塚本 優実 高杉 洋子 上村 ルミ子



虹のもとには新しい仲間を2名迎え、男性4名、女性6名の計10名となりました。今年度は「本人のやりたい気持ちを引き出し、虹のものと仲間全員で達成感を感じられるように支援する」を重点目標に掲げました。目標達成に向けて取り組む中で、ひとり一人にスポットライトがあたったエピソードを、以下に紹介させていただきます。

(3月、千葉県立中央博物館へ)

### No.1 一本締め！

虹のものと仲間たちは、皆それぞれ役割があります。翌日の予定を書いたり、給食の号令をしたりと、内容は様々です。Aさんは、朝のミーティングで始めと終わりの挨拶を担当しています。どうしたら、発語の少ないAさんが挨拶係をできるか考え、手遊びが好きなので、手拍子を取り入れました。

Aさんの挨拶は、皆の「こ」「れ」「か」「ら」のかけ声に合わせて、元気よく手をたたきます。最後は必ず、一拍置いてから「礼！」(手をパン！)と締めてくれます。仲間や職員全員がそれに合わせて手をたたくので、まるで一本締めのようになり、虹のもとに一体感が生まれます。Aさんの挨拶のお陰で、虹のものは気持ち良く一日をスタート出来ています。

『挨拶』という役割は、シンプルではありますがとても重要だと思います。Aさんは、はじめ単一なリズムでたたいていましたが、今では、「礼」の前に、一拍置いてから手をたたくようになりました。Aさんにとって、挨拶は大切なコミュニケーションのひとつになっています。満足気に笑っているAさんの様子から、自分の役割を受け入れ、理解し、楽しく取り組んでいることが分かります。

### No.2 一緒にあるこう！

Bさんは、積極的な頑張り屋さんです。いつも元気いっぱいですが、運動はあまり得意ではありません。そんなBさんが、虹のものと新しい仲間であるCさんのために、力を発揮したエピソードを紹介します。

その日は暑い中での全体ウォーキング。仲間たちと共にBさんも懸命に歩いていました。そんな中、途中の上り坂で、Cさんの足取りが重くなっていました。すると、その様子に気付いたBさんが、Cさんに手を差し出してくれたのです。Cさんの手をしっかりと握り、額に汗を滲ませながら、見事に坂を上り切ったBさん。その姿を見ていた職員や仲間から「ありがとう！」「すごいね！」と声をかけられると、ニコッと笑い、ピースサインをして答えていました。この時のBさんの笑顔は自信に満ちていました。

Bさんは、自分が坂を上るので精一杯だったはずですが、それでもCさんに手を差し伸べてくれたのは「Cさんを助きたい」との気持ちがあったからだだと思います。虹のものと後輩のために頑張った事で、大きな達成感を得たのではないのでしょうか。

### No.3 一緒に話そう！

Dさんは、話すことが苦手で、自分の思いが伝わらず歯がゆそうにしていることがあります。「伝わらない」と思ってか、積極的に仲間と話すことはありません。そんなDさんに、毎月ホームで行う調理のメニューの候補を出してもらおうことにしました。仲間と話す機会が増えるのではないかと考えたからです。

メニューの打ち合わせをしていた時、とても素敵な表情が見られたので紹介します。

Dさんは、調理のミーティング前に仲間が好きそうなメニューを考えてくれています。昼休みに職員と打ち合わせをしていると、近くにいた仲間が、「何？」「どうしたの？」と言いながら話に加わってくれました。Dさんが提案したメニューを聞き、仲間から「それおいしそう！」「食べたい！！」という声が響き渡ります。それを聞いたDさんは、次から次にアイデアを出してくれます。一緒に話し合っていた仲間に「それもおいしそう！」「あとはなにがあるの？」と言われ、Dさんは戸惑いながらも、とても素敵な笑顔で質問に答えていました。

Dさんは、始めは職員と話をしていましたが、仲間からの称賛は想定外で嬉しかったのだと思います。そして、仲間から質問されることで、「分かってもらえる」「自分の話を聞いてもらえる」「話してもいいんだ」という気持ちになれたのだと思います。

仲間との関わりの中から、「自分の気持ちを伝えたい」という意識に変わり、質問に答えるという大きな一歩が、踏み出せたのだと思います。

#### まとめ

虹のもと3年目となり、ホームのつながりがより一層強くなりました。仲間同士で折り紙やぬり絵をしたり、歌を歌ったりと、コミュニケーションも増え、特別な『仲間』としての意識が高まったのを感じます。上記のエピソードのように、誰かにスポットライトが当たる瞬間、そのそばには、必ず『ホームの仲間』の存在がありました。大切な仲間がいることで、彼らの心に「伝えたい」「知りたい」「助けたい」という「やりたい気持ち」が芽生えました。そして、行動し達成することで、自信がつき、また次の「やりたい気持ち」へと繋がっていくのだと思います。今後も、仲間たちの結びつきを深めていけるよう、ホームのコミュニケーションを重視した支援に取り組んでいきたいです。



(10月、千葉市動物公園へ)

## 2-花あかり

緑川 景太 山畑 遼侑 北原 晶子 遠矢 祐子  
市川 洋子 志保澤 優子 知脇 風香

『花あかり』は、今年度は新たな仲間2名を加えてスタートしました。仲間同士、どのように接したら良いのかなど、試行錯誤を繰り返す日々の中で、仲間を気遣う優しさもたくさん見られ、今では10名全員でイベントも活動も全力で行う、活発的で笑顔の絶えないホームとなりました。



### ◎一人ひとり役割を持ち、メリハリをもった生活を送る

これは2024年度の花あかりの重点目標です。花あかりでは一人ひとり、ホームの中で役割があります。その役割を通して他者との関わりを増やしていき、やりがいを感じていただきたいという願いのもと行っています。また、時間の割り振りを明確にすることによって、生き生きとした生活を送れるように支援してきました。本項では、「スポットライト」をテーマに、仲間が輝く瞬間とその輝きをもたらした事について報告をさせていただきます。

### No.1 放送委員会始動！

今年度、はちみつ内のコロナウイルスの感染拡大を防ぐために、手洗いをこまめに行い感染症を予防することにしました。そして、みんなに手洗いを呼びかける「放送委員会」という組織が発足しました。そんな新しい取り組みの中の素敵なエピソードを紹介いたします。

放送委員会のメンバーは花あかりの二人です。仕事内容は、朝昼帰りの1日計3回「みなさんこんにちは、手を洗う時間になりました！ピカピカにしましょう！」と放送を入れます。初めは緊張した面持ちでマイクを握っていました。しかし、日々回数を重ね、今では、放送機器の準備から放送まで、二人だけで行います。また、時にアドリブを入れて和やかな空気を作り出してくれることも…！二人のおかげではちみつ全体が積極的に手洗いに参加出来ています。はちみつ内でイベントがあるとAさんとBさんに司会をお願いしようとオファーが殺到しているとか…。今後のお二人の活躍にも期待が高まります！



初めて放送を成功させたときの誇らしげな表情は忘れられません。毎日はちみつに二人の明るい声が響き渡るとこちらも元気になるという声も多く上がっています。たくさんの人から称賛されることで、自信につながり、笑顔の時間が増えました。こういった一人ひとりがキラキラと輝ける瞬間を大事にしていきたいです。

### No.2 情熱のチョコケーキ

はちみつでは月一回「調理」という時間を設けています。「今月の調理では何を作る？」と案を出し、買い出しへ行き、実際に調理するところまで、仲間たち中心で行います。そんな時、みんなをアッと驚かせるプレゼンテーションをした方がいました。

ある時の調理で C さんの提案した「チョコケーキ」が見事仲間たちの票を集めました。チョコケーキを作ることが決まると、翌日の昼休みに C さんは紙とペンを持ちチョコケーキの絵を描き始めました。絵が上手な C さん。C さんの好きなものがたくさん乗った、大きくておいしそうなチョコケーキの絵を描き上げました。そして、絵をもとに「(チョコケーキには) チョコミントと、プリンアラモードが乗るといいと思うんだよね」とプレゼンテーションをしてくれました。あまりの絵の出来栄えに歓声が上がりました。

プレゼンテーションの方法もさることながら、絵の出来栄えとダイナミックさ、そして、普段はクールな C さんの輝いた笑顔に心動かされました。まさに、「スポットライト」が当たった瞬間でした。

### No.3 笑顔の贈り物

花あかりには普段から笑顔がいっぱい！そんな笑顔の渦の中心にいても過言ではない人物がいます。最後に、花あかりの笑顔の秘密に迫るエピソードをご紹介します。

D さんは今年花あかりに入った仲間です。入りたての頃は今までと違う生活に戸惑いも見られていましたが、朝帰りのミーティングでは初めの挨拶を、体操の時には竹の棒を配る係をしています。「(ミーティングを) はじめます」「(竹の棒) どうぞ」という言葉に、ニカッという微笑み。仲間たちもつられて笑顔に！毎回必ずミーティングと体操時には花あかりに笑顔の花が咲きます。D さんも今では、すっかりはちみつにも慣れ、花あかりの一員としてホームを盛り上げてくれています。

周りにいる人を自分の笑顔で笑顔にする…それは D さんの持つ唯一無二の輝く才能だと思います。D さんだけでなく、普段から花あかりの優しく、ユーモアのある仲間たちのおかげで、朝から送迎車に乗るまで、花あかりには、毎日笑顔の花が咲き誇っています！

#### まとめ

普段自分からなかなか他者に話しかけられない人でも、役割を通して新たな会話やコミュニケーションが生まれ、笑顔が生まれる瞬間を、何度も目にすることが出来ました。また、「みんな、朝のミーティングの時間だよ」などと、ホーム全体で声を掛け合いながら生活し、昨年度より、一層まとまりのあるホームになってきました。それは、仲間同士で思いやる心が創り上げてきたものだと思います。来年度も、個々にスポットライトが当たる瞬間、きらきらと輝く仲間の表情を大事にしていきながら、より素敵なホームになれるよう、精進して参りたいと思います。



(ふるさとまつり T シャツのための制作。キャンバスにアクリル絵の具で描きました。今年度のふるさとまつりのテーマ「多様性」を表現するために、万華鏡を見てヒントにしました。みんなでわいわいと描いている花あかりの仲間たち。)



### 3-黒のビロード

宮本 英恵 高田 有啓 大淵 友那 渡邊 昌代  
嶺岸 みゆき 廣井 美奈 伊藤 ひろ子 山本 鮎実

黒のビロードは4月から新しい仲間が一人加わり、9名で始まりました。昨年度は、できたばかりの新しいホームだったので、まずは一人ひとりが安心できる居場所づくりに取り組みました。今年度はさらに「仲間同士の関りを増やし、役割を通してやりがいを感じてもらおう」という重点目標を立て、仲間同士の関係づくりを重視しました。そんな中で、キラリと輝いていた仲間の様子をご紹介します。

#### No.1 ワイパー使いの達人

Aさんは、3月に学校を卒業して、4月からはちみつの仲間になりました。学生時代は、基本的にはずっと車いすで移動していましたが、手すりを使ったり、手を繋げば歩けます。棒状の物を持つと、バランスがとれて歩きやすくなるようでした。新しい環境に、はじめは緊張していましたが、ある役割を通して手応えを感じ、今ではすっかりはちみつでの生活にも慣れ、毎日元気に登所しています。

歩くとき、棒状のものをスイスイと動かすAさん。手や腕を動かす棒状の道具を使った掃除が得意だということが分かりました。そこで、昼食前のテーブル拭き係をお願いすることにしました。初めは、竹の棒の先でフキンを押すように拭いていました。しかし、テーブルの端から端までの距離が長く、対角線を拭くのも一苦労です。そこで、長さを変えられるワイパーに変えてみました。すると、以前まで届かなかった奥の方まで一回で拭けるように！現在では、食事の前には椅子から立ち上がり、自分からワイパーを持って拭いてくれます。皆から「ありがとう！」と声を掛けられるたびに、「はい！」と嬉しそうに笑うAさんです。



Aさんは仲間や職員に「ありがとう」と感謝の言葉を掛けてもらったのが嬉しかったのだと思います。自分から立ち上がる姿を見ると、テーブル拭きは「自分の仕事だ」と責任を持って取り組んでいる事が分かります。自分の得意なことを活かした役割を受け持ったことで、黒のビロードが居場所となり、安心して過ごせるようになりました。

#### No.2 仲間のために

Bさんは、普段から時間前行動を心掛け、準備もしっかり行うなど黒のビロードではリーダー的存在です。仲間想いで、いつも仲間のことを気にかけてくれています。包丁が上手で、月一回の調理の日は一段と積極的です。そんなBさんのエピソードを紹介します。

ある調理の日、メニューはミニハンバーグでした。Bさんは登所するなり「はい、これ使って！」と袋入りのチーズを出してくれました。「チーズを入れたらもっと美味しくなるだろう」と、自宅から持って来てくれたのです。みんな、まさかのBさんの行動に驚くと共に、朝から歓声があがりました。仲間たちのリアクションと「ありがとう！」のシャワーに、Bさんは嬉しそうにニッコリと笑いました。チーズ入りのミニハンバーグは大成功。美味しくいただきました。

Bさんは、仲間に美味しいハンバーグを食べて貰いたいと考え、行動してくれました。「調理」という自

分の好きな時間を、より楽しみたいという考えもあったと思います。自分だけではなく、仲間たちのことも考えて下さる B さんです。

### No. 3 「明日も来てくれるかな?」「いいとも!」

C さんがはちみつに通い始めて3年が経ちました。入所当初は、口数も少なく、仕事にも消極的な様子でした。早く帰りたいあまり急に外に出ようとするなど、落ち着かない時期もありました。しかし、現在はホームでも生産活動でも、以前とはすっかり見違える程積極的に活動しています。

「お茶ください!」仕事から戻ってきた C さんが職員に声をかけ、喉を潤しています。「もう1杯ください!」と、おかわり。「もういいです。ありがとう!」と、頭を下げながらコップを戻してくれます。帰りのミーティング前の C さんは、「掃除しよっか」と立ち上がり、職員に「モップ出してください!」仲間には「〇〇さん、椅子(あげて)!」と指示を飛ばします。そしてモップが出て来るや否や、どんどんかけていきます。勢いそのままに他のホームにも、モップがけをしに行ってくれます。一通り掃除を終えると、おまちかねのコーヒータイムです。一息つきながら「明日何するの?」と予定を確認し「明日来ます。迎えに来てください」。隣に座っている仲間にも「明日来る?」と聞き、「来るよ」という返事に握手で応えています。職員があらためて「C さん、明日も来てくれるかな?」と聞くと、「いいとも!」と元気に答え、帰りの車に乗り込んでいきます。

かつての姿が信じられないほど、最近の C さんはやる気に満ち溢れ、自分から積極的に色々な人に話しかけています。仕事にも誰よりも速く取り掛かります。お茶のコップを戻す際、お礼を言ってくれるようになったのはつい最近です。いつも、みんなから「ありがとう」と言われ、C さんからも自然と出るようになったのではないのでしょうか。そんな姿を見ると、C さんにとってはちみつは、毎日来たい好きな居場所になっているように思います。これからも、どんどん活躍の場を広げて行ってほしいです。

#### まとめ

エピソード以外にも、仲間たち一人ひとりの良いところや、新しい一面を発見できた一年でした。お願いした仕事だけでなく、自ら進んではたらいっている姿もありました。みんなから「ありがとう」と感謝されることで、やりがいも感じられているように思います。秋からは外出が始まり、同じ楽しみを共有することで仲間同士の関係も深まってきているように思います。今後も、自然とお互いに助け合えるようなホームを目指していきたいです。次年度も、仲間がキラリと輝く瞬間を見逃さず、また得意なことで輝ける機会を増やしていきたいと思います。



(左) 2月加曾利貝塚にて

(右) 「太鼓の達人」をスクリーンに映して挑戦

## ■ 生産活動

### 1-タートルズ

渡邊 京子 宮本 英恵 山本 鮎実 本田 郷士 鈴木 尚子  
渡邊 昌代 市川 洋子 梅田 かおる 沼澤 明姫 高橋 美紀  
伊藤 ひろ子 高杉 和明 高田 有啓

タートルズは、仲間17名、職員12名、ボランティア1名で木工製品と亀崎箒を生産しています。

本年度は、『一人ひとりの得意に合わせて、参加したくなるように作業工程を工夫する。』『仲間の得意を活かした製品づくりをし、手ごたえを感じられるよう支援する。』の二つの事を重点目標として活動を行いました。

本年度の報告書では「はたらくなかまたち」をテーマに、協力して製品づくりを行う仲間たちの素敵なエピソードを紹介させていただきます。

#### No.1 協同作業1

今年度も、いぶき福祉会さんからカレンダー立ての注文が入りました。竹の棒に色を塗る作業は、箱に穴をあけて、そこに竹の棒を立てる事で塗りやすくなりました。手先を使う作業が得意な仲間が、この作業に集まりました。

ホームが別で、普段接点が少ないAさんとBさんが隣同士になり、竹の棒に色を塗っていた時のことです。Aさんが塗り終わった棒に色ムラがある事にBさんが気づき、色ムラのある個所を綺麗に塗っていました。Aさんからは見えづらい所でしたが、Bさんは見えたのです。二人の協同作業により、竹の棒は綺麗に仕上がりました。

BさんはAさんのフォローを行い、良い製品を作る為に自ら考えて作業を行っていました。本当に凄い事です。塗りむらや塗り残しは製品のクオリティを左右します。Bさんのお陰で、いぶき福祉会さんに良い製品を納品する事が出来ました。

#### No.2 協同作業2

長くはちみつで一緒に過ごしているEさんとFさんは、カレンダー立て本体にヤスリがけを行っていました。お二人とも、ヤスリがけは大得意です。

Eさんがヤスリをかける製品を取ろうとしていましたが、手が届かず取れませんでした。するとそれに気がついたFさんが製品を取ってEさんに手渡していました。また、その次にヤスリがけをする製品もEさんの側に寄せていました。EさんもFさんが渡してくれる事に、手をあげて「ありがとう」と合図を送り、また黙々とヤスリをかけていきました。

Fさんは、困っている仲間に気がついて助けてくれました。本人としては何気ない事、当たり前の事という風に思っているかもしれませんが、このような気遣いや親切の積み重ねが、仲間と信頼関係を築く上で重要です。優しくされた仲間は、また自分も他の人に優しくしてあげようと思う、そんな優しさの連鎖が生まれる事を期待しています。

### No. 3 協同作業 3

今年度も亀崎箒の注文が沢山入りました。昨年、製造工程を細かく分け、仲間たちが箒作りに関わりやすくなりました。その中で、助け合いながら仕事をするCさんとDさんの様子を紹介します。

CさんとDさんは同じホームの仲間です。ホームではCさんが何か物を動かしてそのままにすると、Dさんが元通りに戻してくれるという姿がよく見られます。この二人の関係がタートルズでも見られました。竹ぼうき作りを行っている時、Cさんが竹の棒を容器に入れていましたが、上手に容器に入れられず、落としていました。すると、Dさんが側に行き落ちている竹を拾い、容器に入れてくれました。その後も、マイペースなCさんを几帳面なDさんがフォローしながら、全ての竹を入れ終わりました。

Dさんは普段からCさんの事を気にかけて、フォローをしてくれます。CさんはDさんが助けてくれる事で、「失敗しても大丈夫!」と安心した様子で仕事に取り組めるようです。出会ってから4年目になる2人の仲は、段々と深まっています。このような関係はとても素敵な事だと思います。

#### まとめ

たかおの杜に来て3年目、活動場所にも慣れて来ました。いぶき福祉会さんとのカレンダーづくりなど、定期的にまとまったお仕事も頂けるようになってきました。どんな仕事も、職場の人間関係は重要です。仲間を思いやる事、協力する事、「はたらく」ことの大切さを改めて見つめ直した一年でした。ご紹介した以外にもタートルズでは、仲間同士で協力してはたらく姿が沢山見られました。

今年度は意識的に、一人ひとりがやりたい作業を選べるようにする、得意な作業に誘う、補助具や道具を工夫するなど、仲間たちが楽しく参加できるよう支援しました。一方で、仲間の得意なことを活かした新製品開発には至れていません。これまでは製品ありきで、どうしたらこの製品を仲間たちが作れるか、製造作業に関われるかを考え、作業を分解してつくっていました。今度は、仲間たちの得意なことを元に、それを活かすとどのような製品がつくれるか、を考えたいのです。これについては、来年度も引き続き、みんなで取り組んでいきたいと思っています。

## 「なかまカレンダー」

いぶき福祉会様(岐阜県)とのコラボも4年目です。



(上) ご注文いただいた「四街道市みんなで地域づくりセンター」へ、タートルズ全員でお届けに行きました。

(左) 裏面は山吹色に塗りました。

亀崎時代、みんなで絵を描いた板（亀崎の施設では壁になっていました）が、カレンダー立てとして生まれ変わりました。



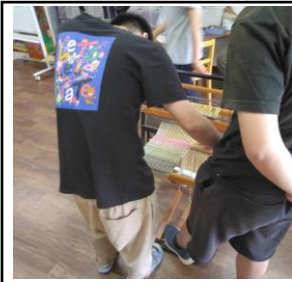
## 2-クレインズ

清水 さやか 北林 智子 志保澤 優子  
廣井 美奈 岩館 和大 緑川 景太

今年で引越ししてからはや3年。最初は右も左も分からなかったことも、今では製品が完成するまでの工程を各々が把握し、仲間たちの取り組みもより活発かつ積極的になってきました。クレインズでは『仲間同士で協力し合い、分業して一つの製品が完成できる環境をつくる』を重点目標とし、仲間15名で取り組んでいます。織り始めるまでには、大まかに整経から始まり、蔑し、綜統通しの3つの工程を踏む必要があります。それぞれの工程の中にも難しい点がいくつもありますが、それでも、仲間同士で助け合い、まさに『はたらく』姿がたくさん見られたので、エピソードとともに紹介したいと思います。

### No.1 鼓舞

上記でも述べたように、機織りは簡単な作業ではありません。難しいことも多くあるため、一人ひとりの得意なところを活かし、どれだけ協力し合えるかが大切になってきます。そんな中、仲間同士で助け合い、協業で進める姿が見られました。



織り機で布を織るのは好きだけでも、手と足を同時に使うことが難しく、なかなか思うように進められないAさん。なんとか一人で頑張ろうとしていましたが、上手くできなくて、途中で心が折れてしまいそうになります。その姿を見ていたBさんが「Aさんは手を動かすのが上手だから、私に足の作業は任せて！」と声をかけました。そして、作業を進めると、見事に二人の息が合い、素敵な布を織ることができました。

Aさんのやる気を汲んだBさんが声をかけることによって、結果的にAさんの気持ちを奮い立たせ、勢いづけることとなり、最後まで作業を進めることができました。このように仲間を鼓舞する姿も「側楽」と言えるのではないのでしょうか。

### No.2 世界にひとつだけのバックをつくろう！

これまでクレインズの仕事は、「布を織る」ことが主でした。今年度から織った布にミシンをかけて製品にすることにも挑戦しています。それは、今年からクレインズに来たCさんがきっかけでした。

今年からクレインズに異動してきたCさん。はじめは、織り機の操作に慣れず、落ち込んでしまうこともありました。

Cさんに織った布で何を作りたいか聞くと「バックを作りたい」と教えてくれました。では、バックを作りましょう！と目標を立てました。すると、以前よりもやる気ができて、織り機の操作も上達していきました。さらに、ミシンで縫う作業も手伝ってくれるようになりました。布を縫うために押さえを下ろし、スタートボタンを押してくれます。活動の時間を重ねるごとにミシンの操作にも慣れていきました。「バックできるの楽しみだー！」と作っているときから完成をととても楽しみに作業に取り組んでくれました。バックが完成するととびっきりの笑顔で「できたよ！」と職員に見せてくださいました。



Cさんは、バックを作りたいという明確な目標ができたことにより、機織りへの意欲がでたのだと思います。Cさんがきっかけで他の仲間たちもミシンに興味を持ち、新しい仕事が広まりました・そして、仕事に対してのやる気もより一層上がってきています。クレインズの布は糸も仲間たちが全て選んでいるため、一つひとつ同じものはありません。Cさんのバックは世界に一つだけのバック、すなわち特別なオンリーワンなのです。

### No.3 計算の達人！

販売会を終えると、みなさんが楽しみにしている売上確認の時間がやってきます。もちろん職員だけで算出するのではなく、仲間も一緒に行きます。在庫数を一から確認し、金額を計算したのちに、みんなで共有するという流れです。仲間一人ひとりが役割を持ち、協力し合っていた中で生まれたエピソードを紹介いたします。

売上確認は、在庫確認や書記、計算など分担して行います。Dさんは計算係に立候補しました。しかしながら、計算が難しく、一人ではつまずいてしまっていました。そこで一緒に作業をしていたEさんが電卓を持ってきて、Dさんと一緒に計算してみることにしました。慣れない電卓での作業でも、二人で声をかけながら計算し、売上確認をすることができました。

仲間が苦戦している様子を見て、手を差し伸べる姿はまさに「側楽」です。一人ひとりが役割を担い、責任を持って取り組むことで、成功することができたのだと思います。

#### まとめ

上記のエピソードなどを通して、仲間に限らず私たちの生活にも生かせることは多くあることに気付かされました。私たちの目の前に困難な壁が立ちはだかることもよくあると思いますが、そのときこそ「側楽」を大切にしていく必要があります。一人では難しいことも、仲間と協力すれば一歩前進し、解決や成功、改善に導くことができます。今後も仲間の良い所、得意な所を活かし、協力して困難を乗り越える、そのようなやりとりを大切にしていきたいと思います。そして、役割を持ち、成功を積み重ねることによって、さらに意欲的に働くことができるように支援して参ります。



販売会にてお客様から「織物製品が増えましたね」との声を多くいただきました。  
写真は「Y・Y・KNOWSON 秋まつり」

## 3-ゴーツ

上村 ルミ子 知脇 風香 北原 晶子 嶺岸 みゆき 飯野 洋平  
山畑 遼侑 河野 佐知子 遠矢 祐子 堀 柊人

今年度は『仲間たち一人ひとりのやりがいを感じてもらえる支援を行い、地域に根差した生産活動を行う。』という目標で精一杯取り組んで参りました。昨年に引き続き、地域振興財団より近隣の公園（たかおの杜第1公園、たかおの杜第3公園）の除草作業と、今年度から畑楽農園と連携し、作業を行っています。畑では野菜の収穫や苗の定植、施設ではポットに土を入れて種をまいています。汚れた資材を洗うこともしています。ゴーツが誕生して3年が経ちました。積極的に仕事に取り組まれる方が増え、今年度は一人ひとりが「自分の得意」なことで仕事を定着する方が多く見受けられました。その中でも、「側楽仲間たち」をテーマに仲間同士で支え合いながら仕事をするシーンがありましたのでご紹介いたします。

### No.1 畑楽農園で「側楽」

畑楽農園で初めて作業をした時の出来事です。その日の仕事内容は、生薬\*の植え付けでした。畑に敷かれた25mのマルチの1つの穴に生薬の種イモを3個入れる作業にチャレンジしました。難しい作業でしたが、地域の方や畑楽農園の河野さんからの声掛けで、仲間たちのひたむきに挑戦する姿が見られました。

※生薬とは…植物、動物の全体または部分、あるいは鉱物などの天然物に乾燥などの簡単な加工をして作った薬のことです。

新しい作業に緊張するAさんとBさん。種イモを3個数えて穴に入れることが難しく、数え間違えてしまうことも多くありました。そんな時、見ていてくれた地域の方が「凄いね！さすが！」と声をかけてくれました。照れた笑顔を見せたAさんとBさん。その出来事をきっかけにやる気スイッチが入りました。その日25m×2列をやり切った2人に「1人で作業をしていたら大変だったけど、これだけの量を終わらせてくれて助かった！ありがとう！」と河野さんが声をかけてくれました。2人は誇らしそうな表情で作業を終えました。

地域の方から褒められたことや河野さんからのありがとうは、嬉しさや達成感を感じ、2人の手ごたえに繋がったのではないかと思います。また、新しい作業にひたむきに取り組んだことで、仕事をするという事はどういうことかを実感できたのではないかと感じています。今ではAさんとBさんで作業のやり方を教え合う姿も見られるようになりました。畑楽農園さんでは、「側楽」だけではなく「働く」ことも学ばせていただいています。

### No.2 好きなことを仕事に！

私たち職員は、本人が「仕事って楽しい！」と実感することが大切だと考えています。今年からゴーツにきたCさんはいつも夢中でお花を摘んでいましたが、1年が経ちある変化が見られました。

公園のお花摘みに集中するCさん。何か他のこともできるかなと考えた職員は、一輪車を持ってきました。「そのお花を運ばない？」とお誘いすると、Cさんは、両手いっぱいのお花を一輪車に投げ入れて全速力で運びだしました。一輪車を押すのが上手だったので、今度は「草刈り機もやってみよう！」とさらに提案。公園には、足を大きく上げて全力で、時間いっぱい草刈り機を押すCさんの姿がありました。今では、熊手（レーキ）を使って草集め、集めた草の袋詰めなどにも興味を持って取り組んでくれています。

Cさんは、1年で様々なことができるようになりました。Cさんが様々なことにトライするようになったのは、本人が楽しいと実感したからではないかと思います。仕事をやらされているのではなく「自分が好きだから取り組む。」ということが大切だと感じます。

### No. 3 Best Friends.

活動日の午後は施設内清掃を行っています。DさんとEさんはゴーツが誕生してからずっと施設内清掃を担当しています。2人は同じホームで仲が良く、その日は一緒にモップ掛けを行っていました。仕事中に2人の素敵なシーンが見られましたのでご紹介いたします。

ある日、廊下のモップ掛けを行っていました。2人にとって慣れた仕事なので、いつもあっという間に終わらせてしまいます。しかし、その日の天気は雨。湿気で床がいつも以上に汚れていました。Dさんが床についた汚れを磨いている時に、「手伝うよ！」とEさんが声をかけて手伝っていました。汚れが落ちて2人は無言でグータッチ。それ以来、お互い声を掛け合ってはちみつをピカピカにしてくれます。

DさんとEさんはホームと活動班が一緒ということもあり、たくさんコミュニケーションをとっているのをよく見かけます。活動中は2人で一緒にいることが多く、誰よりも真剣に取り組まれています。ゴーツにとって欠かせない存在です。

#### まとめ

今年度も昨年と同様に公園の整備、施設内清掃、施設周辺のゴミ拾い、公用車の洗車を行ってまいりました。2024年4月から、畑楽農園さんのお仕事をお手伝いさせていただいています。新たなお仕事もいただけることができ、仲間の工賃アップに貢献できました。反復作業も多くありますが、今年度は一人ひとりがその作業を自分の「得意」に変えて、精一杯取り組む姿が印象的でした。楽しいと思って作業をするだけでなく、一人ひとりが手ごたえや達成感を感じられるようにこれからも職員一同精進していきたいと思えます。来年度のゴーツもよろしく願いいたします。



(左から)・公園の草刈り・草を袋につめて集める・洗車も大切な仕事・休憩中の仲間たち



## ■ サークル

サークル活動は、毎月2回、水曜日の午後に行っています。造形・スポーツ・カラオケの3つから、その日に自分が行きたい所を選びます。サークル選びは、はちみつの意思決定支援の一つです。廊下にホワイトボードが出されると、自分が行きたいサークルのところに、自分の札を貼ります。カラオケサークルの仲間たちは、そこに歌いたい曲名も書き入れています。いつも同じサークルを選ぶ方も居れば、たまには気分転換とばかりに違うサークルに行く方もいます。ホームを越えて、「いつものメンバー」が集まるのもサークルならではの。ホームとも生産活動とも違うメンバーで、好きな時間を過ごす仲間たちの様子をお伝えします。

### 造形サークル

造形サークルには、創作活動が好きな方が集まります。いつも必ず参加する固定メンバーが数名、内容に誘われて来てくれる方が数名、大体6名程度で活動しています。今年度は「やりたくて来ちゃった！」と言う初参加の方も何名かいらっしゃいました。

#### ○造形サークルで大切にしていること

- ・ 仲間の「好き」「得意」を把握し、仲間の表現したいことを尊重する
- ・ 新しいことにも挑戦し、仲間の新たな一面を引き出していく
- ・ ゴール（完成）よりもプロセス（過程）を大切にする
- ・ 季節に合わせて、季節を感じられる内容とする。
- ・ 材料やモチーフには周りの自然を利用する。
- ・ 廃材の有効利用をし、環境に配慮したサステナブルな造形活動を推進する
- ・ 美しさや表現への理解を深め、アートを追求していく



#### ■ みんなちがって、みんないい



造形サークルでは、その日つくるもの（描くもの）は、例えば「手」「うちわ」「帽子」「クリスマスツリー」「へび」「鬼」など、決めていきます。「今日何やるの？」と聞かれたら「手を描きますよ」「うちわを作りますよ」と答え、参加者を募っています。一応「見本」はありますが、必ずそれを作らなければならないというわけではありません。様々な素材や画材を用意し、各自選んで自由に制作します。すると、完成形はみんな違うということが常です。イメージ

はあるのに、うまくできない・・・と困っている方が居たら、励ましつつ、必要に応じて手を貸します。人によってスピードも違うので、早い方はどんどん作り進めています。いつも人数分だけ多様な傑作が生まれています。

#### ■ 888 アートで地域に彩（いろどり）を

秋、工業フェスタの大きなモニュメントづくりは貴重な体験でした。巨大な発泡スチロールにローラーで赤を塗り、そこにアクリル絵具で自由に絵を描きました。これには多くの仲間たちが参加しました。このモニュメントは、ステージに飾られ、フェスタに彩（いろどり）を添えていました。

▪ 造形サークルさんお願いします

はちみつで何か装飾物が必要になると、造形サークルに制作依頼が来るようになりました。ものづくりが好きな仲間たちの腕の見せ所です。今年度も、販売会のポップをはじめ、ハフェスの入場ゲートからポッチャ大会のトーナメント表などをつくりました。4月につくった万華鏡は、その後ふるさとまつり T シャツの絵を描く時にみんなでのぞきました。節分の前には、全員分の豆の箱をあっという間に折ってくれた仲間も居ました。得意なことで頼られる、必要とされる、そんな造形サークルの仲間たちです。

来年度も、一人ひとりの表現活動の充実を図り、「今日は造形に行ってみようかな」という方を増やしたいと思います。

2024 年度造形サークル実施記録

4月	・ポッチャ大会トーナメント表づくり ・万華鏡づくり	10月	・工業フェスタのモニュメント着彩 ・ハフェス入場ゲートづくり
5月	・販売会用ポップの台紙づくり (マーブリング)	11月	・クリスマス製作 (カード、竹のオーナメント)
6月	・支え合いポスター制作 ・市民ギャラリー作品展鑑賞	12月	・クリスマス製作 (リース)
7月	・七夕製作 (段ボールの笹) ・うちわづくり	1月	・墨絵 (巳) 各自で支持体を変える ・節分製作 (鬼のお面)
8月	・退職職員への色紙づくり	2月	・バレンタイン製作 (ハート) ・メッセージカード作り
9月	・工業フェスタのモニュメント着彩 ・オリジナル帽子づくり	3月	・入所式用装飾づくり

## スポーツサークル

スポーツサークルは、身体を動かし体力の維持・向上を目的に行っています。晴れている日は屋外で活動しています。雨天の場合は屋内でボウリングをします。屋外では近隣の公園までウォーキングをし、公園内で各種スポーツや、ブランコ・すべり台を使って運動をしています。仲間一人ひとりが自分の好きな方法で運動を楽しんでいます。

▪ きづかい、ゆずりあい

公園に到着した後は、それぞれ自由に自分のやりたいことを行います。サッカーをする人や遊具で遊ぶ人など様々です。自由に過ごす中で、他の仲間を気遣う様子が見られます。その中から、仲間を気遣って自分の大好きなブランコを譲ってくれる A さんのエピソードをご紹介します。

晴れている日に行く公園にはブランコが2台あります。Aさんは正面から向かって左側のブランコがお気に入りです。一人で利用できる日は、帰るまでずっとそのブランコで遊んでいる程です。ある日、Aさんが遊び始めるとすぐにBさんがやって来てAさんのブランコの前でじっと待っています。職員が「隣のブランコが空いている」と伝えてもBさんはじっと動きません。Aさんは遊び始めたばかりなのでもっと遊びたかったと思うのですが、そっとブランコを止めて休憩のベンチへ歩いていきました。Aさんは、Bさんを気遣って譲ってくれたのです。おかげでBさんは“左の”ブランコで遊ぶことが出来ました。その後、休憩の時間になってBさんがブランコから離れると、Aさんが戻って来て遊んでいました。

無言のコミュニケーションですが、A さんはその後も B さんがいるときは“左の”ブランコを譲る様子が見られました。独り占めせず、楽しみを他の仲間と分かち合う素敵な姿でした。

## カラオケサークル

歌を歌うことが好きな仲間や音楽が好きで仲間が地域交流ホールに集まり、壁にプロジェクターで映し出された歌詞を見ながら歌っています。前年度は実際にカラオケボックスで歌うことができました。今年度もカラオケボックスで歌うために特訓しています！A さんがカラオケサークルを全力で楽しむ姿と仲間思いだなと感じたシーンを紹介させていただきます。

A さんはいつもカラオケサークルに参加され、サークルがある前日から「明日はカラオケ！」と楽しみにされています。当日は、昼食を食べ終わると「カラオケの準備しよう！」と笑顔で職員に声をかけてくださいます。A さんは自分が歌う歌を口ずさみながらいつも準備されています。ホールに続々と集まってくる仲間たちに「一緒に準備をしよう！」と声をかけてくれます。自分の順番が回ってくるまでは、曲に合わせてダンスをしたり、合いの手をいれたり、カラオケボックスにいるかのような雰囲気にしてくださいます。カラオケサークルには A さんが欠かせないです！

自分だけが楽しむのではなく、みんなが楽しめるように明るい雰囲気を作ってくれます。自分が一番最初に歌うのではなく、他の仲間にマイクを渡してくれます。これからもそんな姿が多くみられるサークル活動を行っていきたいと思います。

## 行事報告

### 2024 年度年間行事・イベント実施一覧

月	行事内容	イベント
4 月	・入所式	・お花見      ・タケノコ掘り
5 月	・ハイキング・還暦を祝う会	・大きなテーブル
6 月		
7 月	・流しそうめん（作業所と合同）	
8 月		・ふるさと祭り
9 月		
10 月		・よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024
11 月	・八フェス&作品展「HoneyWelcom!!」	・ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道 2024
12 月	・餅つき ・お疲れ様パーティー（作業所と合同）	
1 月	・二十歳を祝う集い ・新春スポーツ大会（作業所と合同）	・初詣
2 月		・豆まき（節分）      ・ポッチャ大会
3 月		・仲間のお別れ会

今年度、四街道市福祉作業所の仲間たちと合同で行った行事を中心に報告致します。

## ▪ 流しそうめん



準備は、2日前から始まりました。地域の方から頂いた直径約20cmの竹を切るところから始まりました。次に、切った竹を二つに割り、節を落とし、やすりで滑らかにしました。準備万端で当日を迎え、いよいよ流しそうめんの開始です。そうめんが流れると歓声が上がります。流れているそうめんを箸でつかむのは、とても難しく、下にあるザルから食べようとする仲間も。「頭いいね〜！」と笑いがおきました。さらに最強アイテム『フォーク』が登場！流れてくる台にフォークを立てるだけで、そうめんを大量ゲットできました。来年はフォークが増えそうです。作業所の仲間とも交流が出来、みんなの満面の笑顔を見ることが出来ました。

## ▪ お疲れ様パーティー

今年一年頑張ったことをみんなで労い、いつもお世話になっているボランティアさんへの感謝の気持ちも伝えます。会場は、四街道市福祉作業所にしました。はちみつには、初めての場所が苦手な仲間もいて、建物内に入れないのではないかと心配していました。その為、一カ月前からパーティーの準備として作業所に行ってみることにしました。到着すると、作業所の仲間たちがあたたかく迎えてくれたため、誰一人怖がることなく全員が中に入ることが出来ました。

企画から当日の進行まで、今年も実行委員が大活躍しました。作業所の仲間も加わって、オンラインで、定例委員会を開催、何が食べたいか、どんなことをしたいかなど話し合っていました。ビンゴ大会では、ビンゴを回す人、出た番号を発表する人、ホワイトボードに番号を書く人など役割を分担。番号を発表する係になった仲間は、普段は自分から前が出るタイプではなく、はじめはやや緊張しながら「○番…」と発表していました。会場から「あった！」「次は○番出して！」というリアクションに応えるように、だんだんと元気よく、声を張って発表するようになっていった姿が印象的でした。実行委員のおかげで、大盛況のおつかれさまパーティーでした。



(左)今年度おつかれさまパーティー実行委員  
(中央)ごちそうタイム、音楽レクのボランティアさんと。  
(右)ビンゴの景品を実行委員から受け取ります

## ▪ 新春スポーツ大会

今年も、「新春」スポーツ大会として1月に開催しました。二カ月前から作業所の仲間と一緒に準備が始まりました。一番初めに、各ホームと作業所に、自分たちが勝てる種目を出してもらいました。『つな引き』『輪投げ』『カゴが動く玉入れ』『段ボール運びリレー』『ダンス』が出揃いました。仲間たちと一緒に試し練習を重ね、ルールも決めていきました。



当日は、良く晴れたスポーツ大会日和。『段ボール運びリレー』は、4人組になって2本の棒の上に置いた段ボールを運ぶ種目です。仲間と歩調を合わせなければ、段ボールがガタガタと動いてしまうため、みなさん慎重に運んでいました。『カゴが動く玉入れ』は、直径約4mの決められた範囲中で、カゴ役がカゴを背負って逃げまわり、そのカゴに掛けて玉を入れます。玉を入れさせない様にくるくる回る選手や、逆に玉を入れやすいように動いてくれる選手も居ました。仲間は玉を投げることに夢中で、職員は玉を拾って渡すことに必死。周りからも応援の声が響き渡りました。『つな引き』の綱は、みそら小学校にお借りしました。5人の選抜メンバーで行われるこの競技は、選手選びから勝負が始まっています。「よ〜い、スタート！」の声で、全員が真剣に綱を引っ張り合います。息が合わないとなかなか引くことが出来ません。応援も選手の力になり、力いっぱい引いていました。試合が終わると、筋肉痛になる



るほどに全員全力で挑んでいました。仲間も職員も、真剣な姿や笑顔、悔しい顔、全力で取り組んだとても素敵な大会でした。今回の優勝チームは、『作業所』、強かったです。来年こそ、優勝カップをはちみつに！頑張りましょう！

(段ボールリレー。各ホーム力を合わせて運び、デッドヒートしていました)

## ■ 健康管理

2024年度 はちみつ保健計画

4月		7月	健康診断	10月		1月	
5月	健康観察	8月		11月	予防接種	2月	
6月		9月		12月		3月	

◎嘱託医 随時相談 ◎体調チェックシートの確認・実施 ◎体重測定（月1回）

### ■ 5月 健康観察

嘱託医である「和泉内科クリニック」和泉桂子医師が来訪され、尿検査・血圧測定・問診を実施。問診も大きな拒否をする仲間もほとんどおらず、作業所の仲間と触れ合う機会もあり和やかな空気の中で実施することができました。

### ■ 7月 健康診断

協力医療機関「轟クリニック」の医師・看護師が来訪され、はちみつで実施いたしました。

○身体計測 ○採血 ○視力・聴力 ○胸部X線検査 ○心電図検査

健診結果に基づき、個別で健診内容及び再度医療機関受診のお知らせをしています。

過去の健診データと比較し、健康状態の把握に取り組みました。

今後は、予防医療に目を向け、生活習慣の振り返り、健康増進に努めていきたいと考えております。

### ■ 11月 インフルエンザ 予防接種

希望者を募り「和泉内科クリニック」の和泉桂子医師が来訪され、はちみつで実施いたしました。

今まで、採血・予防接種等をできなかった仲間も廊下で待機し、医師に廊下で予防接種してもらい実施することができました。

## ■ 服薬管理

- ・服薬はとても大切なことです。変更があった際は、服薬の状況を御家族から御連絡いただけるよう依頼しております。
- ・薬剤情報提供文書を提出していただき薬の管理を行っております。
- ・普段、服薬している薬を非常時・災害時用の予備薬として用意していただき、医務室で保管しております。(4月・10月交換作業実施)
- ・てんかん発作時および体調不良時の対応「医療的ケアに関する指示書」を主治医に記載していただき医務へ提出。指示書に基づき医療的ケアである座薬挿肛・頓服薬の投与を実施しております。
- ・昼薬の薬セットおよび配薬については、薬セット時・配薬時は看護師によるダブルチェックに加え、投与者もチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないように心がけております。
- ・薬品管理については、施錠可能な場所で保管し、誤飲等事故が起こらないように注意しております。

## ■ 感染予防

○感染症対策として以下の内容を実施しております。

- ・検温の実施（登所時・昼）
  - ・体温チェックシートの確認・状況把握
  - ・マスクの着用・手洗い消毒の徹底
  - ・施設内・車内・コップ等の消毒実施（毎日）
  - ・嘔吐処置ボックスの管理・設置
  - ・感染症予防研修
- 今後は環境整備に力を入れ、状況に合わせ検討・対策を継続していきたいと考えております。

## ■ 医務の取り組み

○利用者と職員の健康管理と安全な保健衛生管理に努めております。

- ・ケガの処置
- ・体調不良時の対応
- ・てんかん発作時の対応
- ・誤嚥時の対応
- ・バイタルサインの測定
- ・精神不安定時の傾聴対応
- ・スキントラブル時の対応
- ・感染症発症時の対応
- ・御家族からの医療相談
- ・通院同行
- ・AED管理(年1回職員研修実施)
- ・保清（爪切り、耳垢除去、入浴等）

## No.1 泣いても動きません！でも、口は開けます

はちみつで過ごしている時に体調が悪くなった、ケガをした、ご家庭の事情でご家族での通院が難しい方、等の仲間の通院をお手伝いしています。病院が苦手な仲間も多いです。通院を頑張っている仲間のエピソードを紹介したいと思います。

病院が大の苦手な A さん。歯科検診で虫歯が見つかり受診することになりました。病院へ行くことに気がついた A さんの表情は曇り、緊張が伝わります。診察室に入り診察台を見たとき、たん泣きながら壁に張りついてしまいました。初回は職員と一緒に診察台に座るだけで精一杯でした。帰りの道中、Aさんと職員は何を頑張れたか話し、【診察台に座ることができた】【エプロンを付けることができた】と、できたことを確認しました。はちみつに戻ると「頑張ってきたよー」とホームで報告し。仲間に「すごい」「頑張ったね」と声をかけてもらおうと、Aさんはとても嬉しそうでした。その後の通院でも泣いてしまいますが、毎回できたことを一つ仲間に報告できるよう頑張りました。数回の通院を経て、ついに A さんは泣きながらも口を開けて動かず虫歯の治療ができるようになりました。

仲間にほめてもらう、認めてもらうことは A さんにとって大きな励みになったと思います。泣いてしまうくらい苦手な病院受診も、皆にほめてもらうことで自信を持ち、頑張れたのではないのでしょうか。今後も仲間の想いや気持ちに寄り添って支援していきたいと思っております。

## 02 | 四街道市福祉作業所

金室 修平 鈴木 清美 平野 清 徳田 明子 若名 美代子  
清水 理恵 伊藤 ひろ子 平林 梨恵 布施 智美 小島 美海

四街道市福祉作業所には現在、仲間 17 名（職員 10 名）が通所しています。令和 6 年 4 月から四街道市福祉作業所の運営が社会福祉法人よつかいどう福祉会に代わり、1 年が経ちました。これまで積み重ねてきた歴史や取り組みを大切にしながら、新しいことにも挑戦しました。仲間たちも職員もワクワクや不安を抱えながら…あつという間に日々が過ぎていったように思います。

当法人には「側楽（側を楽にする、周りをたのしくする）」という言葉があります。慌ただしい日々の中でも私達はこれを意識して過ごしています。本稿では「側楽なかまたち」と「スポットライト」をテーマに作業所の仲間たちの姿、出来事をエピソードとともに紹介させていただきます。

### No.1 見えないところで

四街道市福祉作業所では 4 つの委託作業を行っており、その中の 1 つに建築資材の組み立て作業があります。組み立てた部品は箱詰めをして納品しています。

ある日作業が始まると、A さんは自席ではなく資材庫へ向かいました。様子を見に行くと、納品に使う真新しい段ボールを組み立てようと 1 人で準備していました。10 個ほど黙々と作り「箱出来ました」と報告をして自席に戻る A さん。職員や仲間達から「ありがとう〜」と声をかけられると、口元を緩めながら照れ隠しをするように部品の組み立てを始めました。

段ボールを組み立てているのがいつも A さんだということに気がついたのは、A さんと出会ってからしばらくたった頃でした。仕事として割り当てられた訳ではない段ボールの組み立て。しかし、誰かがやらなければならない大切な仕事です。A さんは仲間の為に、仕事の為に自ら考えてはたらいっていたのです。「見えないところで誰かが側を楽にしている」ということを、A さんに改めて教えてもらいました。

### No.2 エアギター

作業所では常に音楽が流れていて、音楽は身近なものです。作業中は日直が CD 当番となり、聴きたい音楽を決めて流しています。ここ数年のコロナ過で、カラオケが出来なくなりましたが余暇活動時、久しぶりにカラオケを実施しました。

男性アイドルが大好きな B さんは、お昼休みに 80 年代～90 年代の曲を毎日ラジカセで聴き過ごしています。カラオケでは、迷いなく男闘呼組の「TIMEZONE」を選曲しました。仲良しの C さんと一緒に、お互いの手には空気で膨らませたビニール玩具のギターを持ちスタンバイ。曲が始まると片手にマイクを持ち、歌いながらエア演奏を始めました。ギターを弾き真似る姿に、周りは拍手と歓声で大盛り上がり。間奏中は互いの背中を合わせ、セッション披露。最後まで男闘呼組になりきり、かっこよく歌いあげました。

B さんのパフォーマンスが側楽（周りの人を楽しませる）の役割を果たし、仲間や職員を笑顔にしてくれ

ました。周りが笑顔になるのを見て、Bさん自身も満面の笑みを浮かべ、誇らしげなポーズを決めていたことが印象的でした。

### No. 3 ワクワク、輝く

毎週月曜日～木曜日は仕事を頑張っている仲間たち。週末は楽しみな時間に出来たらと考え、金曜日は創作活動や調理・外出などの余暇活動を行っています。この日は創作活動で、木材や木片を用いて手のひらサイズのロボットを作ることになりました。

物作りが得意なDさんは様々な形やサイズの木材をじっくり選び、何かを作り始めました。

「何を作っているの?」と職員が聞くと「ひみつ」と言いながら全集中で作り続けます。創作の時間が終了しても真剣なまなざしのDさん。その後、何日もかけて複数のパーツを作り、全部のパーツを組み合わせると…。なんと高さ約15cmのドラゴンになったのです!仲間達や職員から「ええ!?それを作っていたの?!!すごすぎるよー!」と褒められて、Dさんは嬉しそうな、誇らしそうな…柔らかい表情を浮かべていました。



Dさんは絵も大変上手です。作業所では絵を描くことが多く、立体物は見たことがありませんでした。以前は粘土で立体物を作っていたそうです。久々に立体物を作ったDさん。まさに得意が輝く瞬間でした。その後も創作意欲は止まらず、目をキラキラと輝かせながらロボット作りを楽しんでいます。

#### まとめ

エピソードを振り返ると、作業所には沢山の「側楽」で溢れていると改めて感じました。今では、ゴミが落ちていることに気づいて掃き掃除をする、重い荷物を何も言わずにそっと運んでくれるなど、自分も誰かのためにと「側楽」姿も見られています。上記のエピソードの他にも「大丈夫?頑張ろうね!」と励まし合う姿や「すごいね!さすがだね!」と相手が嬉しくなる、楽しくなるような声掛けも仲間たちのなかで増えています。これからも作業所全体で「側楽」を意識し、お互いに認め合いながら過ごしていきたいと思います。

また、仲間たちが自分の得意なことや好きなことに取り組み、輝く姿がとても印象的でした。カラオケや創作活動以外にも、調理では洗い物上手な方が居たり、レクでは輪投げが上手な方が居たり…。これからも、一人ひとりにスポットライトが当たるような経験や体験の機会を提供できるように努めていきます。そして仲間たちの素敵な姿が多く見られるように、今後も支援していきたいと思います。



(左から)・畑楽農園さんの野菜を袋詰めする仕事を請け負いました・午後の仕事に備えて休憩  
・「多様性」をテーマに描いた作品



## ■ 健康管理

2024年4月より、福祉作業所に常勤看護師が配属となりました。仲間と一緒に作業を行ったり、触れ合ったりすることで日常生活を知り、仲間や職員の体調変化に着目して、日々の健康観察を行っております。現在、作業所には元気な17名の仲間が在籍しておりますが、長い年月、作業所に通われ年齢を重ねている方も多数おります。健康を意識した声掛けや取り組みを考えて実践し、予防医療のお手伝いが出来ればと思っております。

### ■ 5月 健康観察（仲間13名実施）

嘱託医「和泉内科医院」の和泉医師が作業所に来訪され、健康観察を行いました。

●身長・体重・腹囲測定 ●血圧測定 ●尿簡易検査 ●問診

### ■ 7月 健康診断（希望者のみ、仲間8名実施）

「轟クリニック」の医師及び職員が生活介護はちみつに来訪され、希望者のみ受けに行きました。

●身長・体重測定 ●視力・聴力検査 ●胸部レントゲン検査 ●心電図検査 ●採血

### ■ 11月 インフルエンザ 予防接種（希望者のみ、仲間9名実施）

嘱託医の和泉医師が生活介護はちみつに来訪され、希望者のみ受けに行きました。

### ■ 医務の取り組み

◎利用者及び職員の健康管理と安全な保健衛生管理に努めております。

- ・月1回体重測定 血圧測定実施 ・ご家族、GHとの情報共有、医療相談対応
- ・フェイスシート作成（通院状況、服薬状況の把握）
- ・ケガの処置 ・室内の環境整備 ・体調不良時の対応
- ・昼薬の配薬、服薬確認 ・てんかん発作時の対応 ・保清（爪切り、耳垢除去）
- ・服薬管理：非常時、災害時用の予備薬として用意していただき、医務室で保管
- ・誤嚥時の対応：誤嚥の心配がある方には、昼食時の配食弁当をキザミ食にして提供。調理時や外出先での飲食は内容を確認し、安全配慮を行っています。

### ■ 感染予防

◎感染症予防対策を実施しております。状況に合わせて検討、継続していきたいと考えております。

- ・検温の実施（登所時、昼） ・体温チェックシートの確認 ・手洗い消毒の徹底
- ・施設内、車内、歯ブラシ及びコップ等の消毒 ・感染症予防研修

◎現在、作業所には元気な17名の仲間が在籍しておりますが、長い年月、作業所に通われ年齢を重ねている方も多数おります。健康を意識した声掛けや取り組みを考えて実践し、予防医療のお手伝いが出来ればと思っております。

## 03 | CCC（地域貢献事業部）

金室 修平 宮本 英恵

「地域貢献がしたい！」という私たちの想いと、法人理念を形にするために、今年度から CCC（地域貢献事業部）が始動しました。これまで通り、地域の清掃ボランティアや、アートワーク提供等に取り組みつつ、地域課題に対して何かお手伝いできないことがないかとアンテナを張っています。今年度取り組んだ事業は以下の通りです。

### ▪ よつかいどうユニバーサル工業フェスタ



10/5(土)、四街道工業団地にて「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ」を初開催しました。今年度、CCC が最も注力した事業です。四街道市物井にある、四街道工業団地協同組合様は、日頃より「工業団地を地域の皆様知ってもらいたいが、どうしたら良いか分からない」と悩んでいたそうです。それを聞いた四街道市産業振興課の方が、私たちを紹介して下さいました。地域の皆様知ってもらうには…？その最適解として、地域にひらかれたイベントを提案しました。それが「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ」です。実行委員会が組織され、私たちは事務局として、コラボ四街道助成金申請や、出店者・出演者・スタッフ・業者の手配等を行いました。フェスタ当日は、雨の中、想定よりも多い 2,500 人が来場。工業団地ブースでは、各社のものづくりを活かしたコーナーに、子ども達の行列が出来るほど賑わっていました。これを機に、工業団地と地域住民との交流が増えれば本望です。また、フェスタを通して、工業・商業・農業・福祉・教育機関の方たちが、業種の垣根を越えて出会い、知り合うことが出来ました。今後、新たな連携事業や雇用の創出が期待されます。本事業は、私たちにとって大変学びの多い貴重な経験となりました。

### ▪ 社会との架け橋、「888 アート」

日々、はちみつで生まれるアート＝「888 アート」は、今年度も市内のイベントのチラシや、ふるさとまつりチャリティ T シャツのデザイン等に起用されました。件数としては、過去最高でした。また、四街道市福祉作業所の仲間たちからも素晴らしい作品が生まれています。中でも「うわあ〜っ！」と驚かされた傑作については、作業所の項で詳しく述べています。仲間たちの中には、発語のない方や、言葉で伝えることが難しい方もいます。アートは、そんな仲間たちの表現であり、言葉であり、社会や他者との大切なコミュニケーションツールです。アートをきっかけに私たちを知ってもらうことが、障がい理解の促進や啓発に繋がると考えています。



- 1 支え合いポスター：地域包括支援センターがデザインを募集していたので、挑戦しました。はちみつと作業所の合作。デザインは CCC。人間の手だけでなく、動物の手も混ざっています。無事採用され、市内各所に掲示されています。
- 2 ふるさとまつり Tシャツ：今年のチャリティ Tシャツの販売枚数は 1,357 枚でした。左から文字の作者、鈴木市長、金室、絵の作者)
- 3 ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道チラシ：はちみつの仲間の絵と文字で CCC がデザイン。
- 4 よつかいどうユニバーサル工業フェスタ：作業所の仲間が文字と凸凹のシルエット、はちみつの仲間の絵を使って、デザイナーさんが制作。市内中学校、小学校、幼稚園、保育園、千代田中学校区自治会などに配布されました。
- 5 ブラボーFES チラシ：はちみつの仲間の絵を使って、よつまち商店会ブラボー様が制作。
- 6 図書館のトートバック：はちみつの仲間の絵と文字で CCC がデザイン、制作。

### ▪ 私たちは、なぜ地域貢献がしたいのか

すべての社会福祉法人には、『地域における公益的な取組』が責務として課されています。(社会福祉法第 24 条第 2 項)「社会福祉法人である以上地域貢献活動をしなければならない」のは勿論ですが、私たちは、特定非営利活動法人時代から地域貢献事業を展開してきました。なぜ地域貢献がしたいのか。それは、①仲間たちの生きがいのため、②地域社会の意識変革のため、という 2 つのねらいがあります。

① について。普段誰かに助けてもらうことの多い仲間たちが、誰かを助ける側になり、「ありがとう」と言われる。「ありがとう」は、やる気の源、ガソリンのような魔法の言葉です。感謝され、自分が誰かの役に立っているという手応えは、自信に繋がります。自分を誇らしく思える経験の積み重ねは、仲間たちの心を豊かにし、生きがいになっていくと考えます。

② について。私たちが主催したフェスの参加者の中には、「初めて障がいのある方と話した」「障がい者施設に初めて入った」という方が少なくありませんでした。そして、仲間たちの笑顔を見て「イメージが変わった」と言う方もいらっしゃいました。地域貢献活動を通し、地域の方が仲間たちと交流することで、障がいへの理解は深められます。「知ってもらう」ことが、意識変革への第一歩と考えます。



## ■ユニバーサルなまちづくりを目指して

CCCは、施設と地域だけではなく、福祉と社会をつなぐハブ役として活動していきたいと考えております。地域にどのようなニーズがあるのか、そのニーズに対して私たちは何ができるのか、また本当に必要とされているのか、慎重に見極めていく必要があります。私たちが関わることで、ありがた迷惑のようになってしまっては本末転倒です。そのため、効果測定を定期的に行っていきます。指標は、①仲間たちの生きがいを作れているかを測る「仲間たちがどれだけ豊かになったか度」及び「地域の方からのありがとう度」、さらには②地域の方の障がいに対する意識の変化です。これらに関係者にアンケートをとって測ります。今年度の集計は本項に間に合わないため、また別の機会にご報告させていただきます。

CCCは、これからも障がいのある仲間たちが、地域の中で必要とされ、愛され、差別や偏見のない、ユニバーサルなまちづくりに貢献していきたいと思っております。

## ■2024年度 地域貢献事業一覧

### 〈ボランティア活動〉

- ・りんごの樹（元さくらそう）／毎月第4月曜日
- ・四街道市児童デイサービスセンターくれよん／毎週月曜日
- ・みそら団地第11号公園／毎月第1,3,5月曜日
- ・長崎農場／毎週月曜日
- ・施設周辺ゴミ拾い／隔週月曜日
- ・みそら小学校／毎月第2,4月曜日

### 〈地域連携事業〉

- ・農福連携事業（長崎農場、Nwe 畑楽農園）／毎週月曜日、隔週火・木曜日
- ・四街道ふるさとまつりチャリティTシャツ（四街道市みんなで課）／4月-8月
- ・八フェス（地域の福祉団体、個人商店、農家さん）／7月-11月
- New・よつかいどうユニバーサル工業フェスタ／2023年12月-2024年10月  
（四街道市産業振興課、四街道工業団地協同組合、よつまち商店会ブラボー）
- New・サマーコレクション 2024(合同作品展)（社会福祉法人九十九会まあるい広場）7/26-8/31
- New・亀崎箒づくり（千葉敬愛高校リアビズ同好会）／7/15,8/22,9/17,10/5
- New・ファイバーリサイクル回収（ファイバーリサイクル四街道）／6/19,9/18,12/18,2025/3/19
- New・ウェルシア移動販売（地域包括支援センター）／毎週火曜日 15:40～15:55



- (左から)・畑楽農園にてじゃがいも収穫 ・工業フェスタのチラシ用の文字を書く作業所の仲間  
・工業フェスタのチラシの仕分け作業。市内の小学校、幼稚園、保育園、会場学区の中学校、自治会に配られました。 ・雨天で中止になった八フェス。施設内でライブのみ行いました。



## 〈コラボ製品〉



- ・四街道産純粋蜂蜜「よつかいどうはちみつ」  
(よつまち商店会ブラボー) / 随時
- ・888 アートポーチ (ひみつのおしゃれ工房) / 5月
- ・なかまカレンダー2025 (社会福祉法人いぶき福祉会/岐阜県)  
/8月-12月 Zoom 交流 2/4
- New・図書館の本棚 (四街道図書館) / 7/23 納品
- New・トートバック (四街道図書館) / 2025.2-3

## 〈販売会〉

- 5/18 (土) 大きなテーブル@四街道市文化センター
- New 6/1 (土) アートくじらサーカス@佐倉城址公園 大手門広場
- New 6/8 (土) ブラボーFes.はちみつ@JR 四街道駅 北口駅前広場
- 8/24 (土) 四街道ふるさとまつり@四街道中央公園
- New 10/5 (土) よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024  
@四街道工業団地共同組合敷地内
- 11/2 (土) ハフェス@はちみつ ※雨天中止。施設内でライブのみ実施
- 11/16 (土) ちばユニバーサル農業フェスタ 2024in 四街道@四街道市文化センター
- 11/24 (日) Y・Y・KNOWSON 秋まつり@Y・Y・KNOWSON (四街道市吉岡)



# 04 | 相談支援事業所あわい

金室 修平 櫻井 美紗都

日々、あわいを利用される方とご家族、地域の皆さまに温かく支えて頂きながら、相談支援事業所あわいも3年目を迎えることが出来ました。いつもあわいの運営にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

今年度も、「あわいに相談支援をお願いしたい」と仰って頂くことが増え、大変嬉しく思います。先日、はちみつの仲間のご家族から、「身近で本人の様子を見ている方をお願いしたい。」「日々変わっていく家庭の環境についても知っておいてもらえたら、安心です。」などのご要望を頂きました。あわいもはちみつと同じ建物の中にあるので、朝のミーティング前や昼休みにお部屋に伺うと、ご本人から声を掛けて下さる方、ハイタッチをして下さる方もいます。今後ご家庭やはちみつと情報共有をしていくことに加えて、ご本人のお気持ちを汲んでいくことも、大切にしていきたいと考えております。

日々の相談支援の中で、あわいにも様々な相談が寄せられています。相談の中には、地域全体で考えていくことが求められている問題も数多くあります。あわいとしても、地域の抱えている課題を知ること、皆で考えること、自分が出来る部分を発信していくこと、その繰り返しの中で「誰もが安心して暮らしていくことのできる地域」が少しずつ創られていくのではないかと考えております。地域について知る第一歩として、研修や協議会に参加させて頂いています。今年度も市内の特別支援教育連絡会、千葉県内の医療的ケアを必要とする方々の支援体制と個別避難計画の作成に向けて勉強しました。また、高齢者の虐待の早期発見の取組み、地域生活支援拠点等の機能や役割、障害のある方への合理的配慮などの研修会にも積極的に参加させて頂きました。研修会の他にも、月一回、四街道市内の相談支援事業所の相談支

援専門員が集まり、情報交換を行う相談支援連絡会にも参加させて頂いています。経験豊富な相談支援専門員の皆さまから頂く様々なアドバイスは頼もしい物ばかりで、毎回勉強になります。

他にも、災害時の支援に関しては、今年度よつかいどう福祉会は四街道市と指定福祉避難所の協定を締結致しました。支援を必要とする方とそのご家族が、災害時にも安心して過ごして頂ける避難所を目指しております。今後も、皆様が住み慣れた地域で安心して安全に生活を送ることができるように、日々活動していきたいと思っております。

利用者数 27名      計画書作成 15件      モニタリング実施件数 38件（令和7年2月現在）

## 05 | 職員研修

よつかいどう福祉会は、2021年10月に社会福祉法人と成ってから3年目となりました。年を重ねるにつれて、組織や職員の行動が習慣化し、考えが固定化してしまい易い時期でもあります。そこで今年度の職員研修は、「基本から見直し、初心を忘れずに支援を行う」という方針を定め、今の自分たちを見つめ直すこととしました。研修のテーマは大きく分けて「①支援スキル」、「②業務スキル」、「③組織活性化」の三つに分類されます。「支援スキル」に重点を置き、仲間とのかかわり方や自分の在り方、送迎、AEDや感染症対策などを学びました。加えて、組織活性化に向けたワークショップ型研修にも取り組みました。

【各カテゴリの実施回数】①支援スキル：8回      ②業務スキル：2回      ③組織活性化：3回

### □ 2024年度 内部で実施した「職員研修」のプログラム一覧

月	テーマ	分類
4月	日誌や連絡帳の書き方 etc.	② 業務スキル
5月	チーム力を高めるコミュニケーション	③ 組織活性化
6月	個別支援計画について	① 支援スキル
7月	送迎について	① 支援スキル
8月	虐待防止と身体拘束の適正化について 法人理念について	① 支援スキル ③ 組織活性化
9月	自分の守り方（自己覚知）	① 支援スキル
10月	感染症対策について	① 支援スキル
11月	総合支援法について	① 支援スキル
12月	文章の構築（事業報告書作成に向けて）	② 業務スキル
1月	AEDの使い方	① 支援スキル
2月	高齢期の障がい or 精神障がいのある方へのかかわり	① 支援スキル
3月	虐待防止と身体拘束の適正化について 法人理念について	① 支援スキル ③ 組織活性化

## 〈外部研修〉

### 外部研修一覧を掲載

日付	研修名	主催者	講師	参加人数
8/1	うみのもりの音楽をつくろう ～多様な人と音楽でコミュニケーション～	千葉県、千葉アールブリュットセンタ ーうみのもり	赤羽美希氏 正木恵子氏	1名
8/3・4	全国障害者問題研究会 第58回全国大会 奈良 2024	全国障害者問題研究会	池添素氏 塚田直也氏他	3名
8/15	第9回ダウン症セミナー	日本ダウン症協会	菅野敦氏 玉井治氏 真野英寿氏	1名
9/1	第29回社会福祉研究交流集会 in 関東 日常を失わず、平和の内に生きる	社会福祉研究交流集会実行委員会 総合社会福祉研究会事務局	石倉康次氏他	2名
9/20	家族支援体制整備に関する研修会	千葉県発達障害者支援センター	八木淳子氏 千葉県発達障害者 支援センター職員	1名
9/25	施設における新型コロナウイルス感染症対策 施設における感染症胃腸炎対策	千葉市保健福祉局医療衛生 健康危機管理課	感染症班職員 石橋氏、吉野氏	1名
10/21-23	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	フレンズ株式会社		1名
11/10	秋の発達保障講座 実践の魅力と労働の価値 ～福祉の仕事をする職員が育ち合うために～	全国障害者問題研究会 千葉支部	深谷弘和先生	2名
11/12-14	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	フレンズ株式会社		1名
11/20・21	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	フレンズ株式会社		1名
12/25	令和6年度福祉サービス苦情解決研修 <応用編>	千葉県運営適正化委員会	岩崎香氏 小田部篤司氏 宮尾京子氏	2名
1/21	つくる つたえる つながるサミット ～千葉県の障害のある人の表現活動と南関東・ 甲信エリアの障害者芸術文化活動支援センターの 事例について考える～	千葉県、南関東・甲信障害者ア ートサポートセンター（社会福祉法人 みぬま福祉会）	千葉アールブリュットセ ンターうみのもり、南関 東・甲信エリアの障害 者芸術文化活動支援 センタースタッフ	1名
1/30	令和6年度千葉県障害福祉のしごと魅力発信事業 法人の魅力を伝える採用活動研修会	千葉県知的障害者福祉協会 人材確保委員会	一般社団法人 FACEtoFUKUSHI Uniple 株式会社	1名
2/16	人間発達の権利として「包括的性教育」とは	人間と性教育研究協議会障害児・者 サークル 障害児・者性教育セミナー-in 東京実行委員会		
2/22	数えない数学 ～子どもたちの発達をふまえて「教科学習」を考える～	全国障害者問題研究会千葉支部	櫻井宏明氏	1名
2/26・27	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	（株）ヒポクラテス		1名
3/2	令和6年度障害者虐待防止・権利擁護専門研修 （職員のメンタルヘルス・虐待につな がる身体拘束の防止）について	千葉県庁障害福祉事業課 虐待防止対策班	飯ヶ谷徹平氏	3名
3/20・21	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	（株）ヒポクラテス		1名

### ① 支援スキル

#### ○個別支援計画の意義を再確認する

「基本を見直し初心に戻る」ためには、個別支援計画の取り組みについての理解を深めることは欠かせません。個別支援計画の意義を理解し、正しい運用方法を習得するため、講義や個人ワークでの学習に取り組みました。職員からは、「日々の様子を観察して記録する際に、個別支援計画の目標を意識すること

が大切だと感じた。」「仲間への支援をより良くするためには、[目標設定]～[支援実施&記録]～[振り返り]というプロセスで継続的に改善に取り組むことが重要だと感じた。」といった声がありました。

#### ○自己覚知で自分を見つめ直す

適切な支援の実現には、自分を客観的に観る力が必要です。他者が何をどのように考えて行動しているのかを知ろうとせず、個人的な考えで間違った判断をすることを避けるためです。そこで、自己覚知を通じて「自分自身を客観的に認知できるようになる」ことを目的に研修を実施しました。事例によるケースワークなども行い、「自分の解釈の癖を客観的に知る」ことの重要性を再確認しました。また、「人はそれぞれ異なる解釈の仕方をする存在である」という前提を改めて学びました。

#### ○送迎の注意点／感染症対策／AEDの使い方など、安全対策を再確認する

私たちが支援する際の基本となる「安全対策」について、改めて確認をしました。送迎の研修では、国内における交通事故の実情について講師にお話しいただきました。また事故の原因となる注意力の限界について学びました。注意が必要な場所・天候を知ることや、注意力が働くように自分の健康状態を整えること、そして法定速度を守ることの意義を改めて学びました。「わかったつもり」や「できているつもり」になり易い事項を、「本当にできているのか？」という視点で見直す良い機会になりました。

### ② 業務スキル

#### ○文章の書き方／文章構築の技術を再確認し、業務の質を高める

基本から見直すためには、事務作業などの業務スキルについても改めて確認が必要です。そこで、文の書き方をテーマとした研修を4月と12月にそれぞれ実施しました。日誌や連絡帳、事業報告書のどちらも、誰が読んでもわかり易い文章を書くことが重要です。4月の研修では、職員間の情報共有とご家族へのメッセージの書き方として必要な内容と書き方を学びました。12月の研修では、事業報告書の目的、内容と書き方を学びました。私たちの活動を関係者の皆様や、まだ知っていただけていない皆様に伝えていく重要なスキルだという感想が多くありました。

### ③ 組織活性化

より良い支援を行うために、組織力を高めていこうということで、組織活性化に関する研修を3回行いました。

#### ○チーム力を高めるコミュニケーション

なぜチームで協力して支援することが、より良い支援につながるのかを学びました。最初に、良い結果を生み出すチームに必要な要素「目標の設定」「個人の力」「コミュニケーション」の3つを知りました。職員が個々人で努力することではならず、職員同士で情報共有する、相談するなど、相互に協力し合うことが重要であると学びました。そして、「人はそれぞれ異なる解釈の仕方をする」ことがコミュニケーションを難しくさせていることを知りました。つい自分と相手を同一視してしまいがちですが、元々異なる存在としてコミュニケーションを怠ってはいけないなと感じました。

#### ○法人理念について理解を深める

よつかいどう福祉会の法人理念「ミッション・ビジョン・バリュー」を改めて確認しました。私たちが何を目指しているのかを知ることが、日々の業務で悩んだ時の判断軸になるのだと感じました。また「ビジョンに沿った支援」について、グループワークで具体的な内容を話し合ったことで支援イメージを持つことができました。



# 06 | 利用状況

(令和7年3月15日現在)

## 出席率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
89.7	93.1	96.6	95.3	88.9	92.8	96.0	93.4	90.8	87.8	90.6		%
22	23	21	23	22	23	23	22	21	22	21		日

## 利用者状況

### 年齢別構成

年齢	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60歳以上
男性	2	15	3	0	4	2
女性	1	5	1	2	3	1
合計	3	20	4	2	7	3

### 療育手帳別構成

	㊤	B2	B1	A2	A1	㊤1	㊤2
男性	3	0	0	1	13	3	4
女性	2	1	2	0	5	0	3
合計	5	1	2	1	18	3	7

身体障害者手帳1種 1級1名・2級1名・3級1名・6級1名

精神保健福祉手帳1級1名 手帳なし2名

### 障害支援区分

区分	6	5	4	3
男性	14名	7名	5名	0名
女性	6名	5名	2名	0名
合計	20名	12名	7名	0名

### 居住地

四街道市在住 29名 千葉市在住 6名 佐倉市在住 3名 八千代市在住 1名

入所者 5名 退所者 3名

# 07 | 2024年度 社会福祉法人よつかいどう福社会事業計画

## 1. 法人理念

- ・ 人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
- ・ 利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。  
また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
- ・ 地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

## 2. 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

## 3. 資金計画

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

### 2024年度 資金計画 (千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	972 千円	606 千円	151,500 千円	施設整備(元本の返済は2025年6月から)
京葉銀行	15,000 千円	1,671 千円	977 千円	13,016 千円	施設整備
計	166,500 千円	2,643 千円	1,583 千円	164,516 千円	

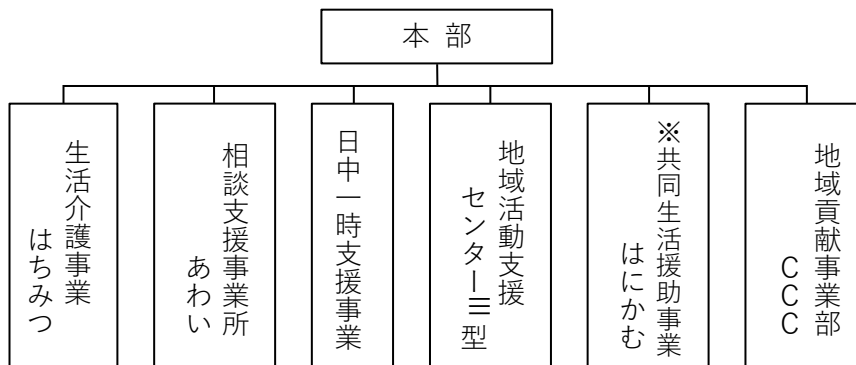
## 4. 役員会の開催等

開催時期	主な議題
2024年 9月	・ 補正予算案及び定款変更等について (理事会開催)
2024年 10月	・ 補正予算案及び定款変更について (臨時評議員会開催)
2025年 3月	・ 事業計画案、予算案、(理事会開催・評議員会開催)
2025年 5月	・ 定時評議員会開催

上記のほか、定款に定められた議決事項及び重要事項を審議するため、適宜、役員会を開催する。

## 5. 法人の組織図

### 社会福祉法人よつかいどう福社会



※今年度下旬及び来年度初旬に開所予定とする

# 08 | 2024年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会事業報告

## 1. 法人理念

### MISSION

障がいがある仲間が、地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）社会をつくります

### VISION

私たちが、はたらく（側業）を実現することで、仲間や地域も豊かになると考えます

### VALUE

- ・障がいがある仲間たちが、地域で普通の人としての生活を送ることができるよう支援します
- ・はたらく（側業）を基本として、支援します
- ・仲間の安全と安心できる生活を守ります
- ・仲間のことを自分ごととして考えます
- ・仲間の得意なところに目を向けて、苦手なところに手を当てる支援をします
- ・仲間の集団を保障し、ともに発達・発展していきます
- ・仲間たちのやりがいや生きがいを創ります

## 2. 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

## 3. 資金計画

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

(千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	1,578 千円	606 千円	151,500 千円	施設整備(元本の返済は2025年6月から)
京葉銀行	15,000 千円	2,658 千円	13,329 千円	0 千円	施設整備
計	166,500 千円	4,236 千円	13,935 千円	151,500 千円	

## 4. 役員会の開催等

### 令和6年度 理事会開催状況

日付	議案	出席状況
令和6年4月15日	1号議案 社会福祉法人よつかいどう福祉会共同生活援助事業はにかむ新築工事について	6名中6名出席 監事2名中1名出席
令和6年5月8日	1号議案 共同生活援助事業はにかむ新築工事入札参加業者選定について 2号議案 定時評議員会について 3号議案 令和5年度(2023年度)事業報告について	6名中4名出席 監事2名中1名出席 (欠席1名同意書書面表決有)
令和6年6月3日	1号議案 共同生活援助事業はにかむ新築工事入札及び契約について	8名中4名出席
令和6年12月17日	1号議案 共同生活援助事業はにかむについて	6名中5名出席

	2号議案 定時評議員会の開催について 3号議案 中長期計画案について 4号議案 令和6年度補正予算案について	(欠席:理事1名書面表決有) 2名中1名出席
令和7年2月22日	1号議案 令和7年度予算案について 2号議案 定時評議員会の開催について 3号議案 借入金の返済について 4号議案 評議員の選任について	6名中4名出席 監事1名出席

#### 令和6年度 評議員会開催状況

日付	議案	出席状況
令和6年5月25日	1号議案 共同生活援助事業はにかむ新築工事入札参加業者決定について 2号議案 令和5年度事業報告について 3号議案 令和5年度(2023年度)計算書類について 4号議案 監事の改選と選任及び理事の改選及び選任について	7名中7名出席、 監事2名中2名出席
令和7年2月23日	1号議案 共同生活援助事業はにかむについて 2号議案 令和6年度補正予算案について 3号議案 中長期計画案について 4号議案 令和7年予算案について 5号議案 定時評議員会の開催について 6号議案 借入金の返済について 7号議案 評議員の退任及び選任結果について	7名中6名出席、 監事2名中2名出席

#### 令和6年度 評議員選任解任委員会

日付	議案	出席状況
令和7年2月22日	評議員の解任及び選任について	委員1名 監事1名 事務員1名

### 5. 法人の総合的な取り組み

#### (1) 組織運営・経営

2024年9月1日で社会福祉法人になって2年が経過し3年目に入る。社会福祉法人よつかいどう福祉会として、生活介護はちみつ、相談支援事業あわい、四街道市福祉作業所の運営を行った。四街道市福祉作業所は2024年4月から四街道市の指定管理制度にて運営を開始した。減少傾向にあった利用人数も徐々に増加傾向になる。今年度は特別支援学校からの実習も多く受け入れ、今後も作業所利用者の新規通所者の獲得を進めていきたい。また、支援の質も同時に高めていけるよう取り組んでいきたい。さらに地域に根ざした活動を積極的に進めていかなければならないと考える。

今年度は地域貢献事業部CCCを設置する事で、地域での困りごとや、法人と利用者が主体となった貢献活動がおこなえた。具体的にはよつかいどうユニバーサル工業フェスタ2024の開催、農福連携の実現などが挙げられる。第3回『八フェス2024』も、施設を拠点として実施するが、悪天候のため近隣の住民を対象に行なった。今後は新たな地域貢献事業を計画し、地域に根差した法人運営を発展させていきたい。



## (2) 法人理念を整理、M (Mission) V (Vision) V (Value) の作成と共有について

これまで、特定非営利活動法人はちみつから継続して掲げてきた理念を、整理すると共により洗練した理念を掲げた (p.3-図)。私たちが目指すべきものは、障がいがある仲間たちが、地域の中で、地域のために、地域に必要とさせるまたは愛される社会をつくることであると考えている。この実現のために大事なことは、私たちが、はたらく (側業) を実践することで、仲間も地域も豊かになっていくと考えるとした。理念を整理するだけでなく、この理念を職員全員で共有することが必要であり、全職員を対象とした研修を年2回行うことで、共有する場を創り、理解を図った。

## (3) 虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会虐待防止について (外部研修の参加と内部研修の強化)

利用者の尊厳と人権擁護の観点から、既存の各会議、委員会、外部委員と共に虐待防止等の取り組みについて広く検証し、改善に努めることを目的とする委員会を年4回開催した。日々の取り組みの中で生じている状況等を伝え、検証・改善に向けて委員の方たちも「自分事」として捉え委員会の運営ができた。

また、監事によるコンプライアンスチェックも行き、現場の利用者の様子や職員の支援の状況などを調査及び確認した。委員会が形骸化しないよう、引き続き取り組んでいく。虐待防止マニュアル作成や虐待防止については、引き続き以下の取り組みをおこなった。

虐待防止の研修は、全職員 (事務職も含む) を対象にした研修を年2回実施した。また、外部研修にも積極的に参加した。監査からの指摘により、虐待防止のための指針を整備することで、担当を明確にした。虐待防止の適正化を推進するための指針及び身体拘束適正化の適正化を推進するための指針を改めて確認し、個別支援計画や面談等に導入した。

## (4) 事業継続計画 (BCP) 感染症及び自然災害の定期点検について

事業継続計画 (BCP) の見直しを行う。計画の中では、基本方針や継続業務の明確化、各事業所での役割や初動の対応についてなどを、職員研修を通して改めて職員間で共通理解を図り点検を行った。

まず、感染症 BCP では、コロナ感染時の対応状況等の経験を踏まえると、感染時の人員・応援体制等については感染拡大予防や環境整備等々において、マニュアル通りでは難しい状況も想定された。しかし、状況を見ながらではあるが、対応の早さが大事である。改めて初動時の確認と大切さを共有した。こちらについては、主に法人の医務が中心となり、感染症対策委員会を年4回行き、感染症の予防や対策を研修や会議等で周知を図った。自然災害 BCP においても同様に、職員全体で確認し点検を行う。緊急時の連絡方法の構築、発電機の始動練習や送迎困難ケースの確認等を具体的に確認した。今後も引き続き、改善を積み重ねてく。

また、四街道市と指定福祉避難所の協定を結んだ。災害時には、避難される方や利用者の安全を第一に運営していくことになるが、備品として購入した発電機をしっかりと活用できるよう研修をおこない職員間で共通理解を図る。

## (5) グループホームはにかむ開所について

令和6年度中にグループホームはにかむが竣工した。来年度4月1日からグループホームはにかむが開所し、入居する仲間たちの新しい生活がはじまる。家族支援という観点からも非常に大きな役割をもつと思われ、今後の事業の在り方も開所しながら検討していく必要がある。また、地域生活支援拠点での、緊急時の受け入れ、体験の場の提供などの登録もおこない実施していきたい。

## (6) 地域貢献事業について

今年度から C C C (地域貢献事業部) を創設し運営を行なう。「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024」の開催や、ボランティア活動などを通して地域貢献や社会福祉法人の存在意義そのものを明確に

する事ができた。このように地域からのニーズや地域に望まれる活動を私たちが行うことが、CCC(地域貢献事業部)及び社会福祉法人よつかいどう福祉会の存在意義や役割になると考える。引き続き、地域のニーズを把握し地域貢献を行なっていきたい。

#### (7) 人材育成の取り組みについて

今年度から人材育成に力を入れて法人運営を行う。毎月実施する職員研修の充実と、年2回の全職員研修の実施、新入社員のロードマップ作成と実施、新人職員の研修の充実、資格取得支援制度の導入など、人材育成において重点的に取り組むことができた。人事考課による評価については、人事考課の運用により、正規職員が自ら設定した業務等の目標を定め実施している。進捗や振り返りを含めコミュニケーションの場面を持つよう行った。職員一人ひとりとの面談は、日頃の利用者支援の質の向上や確認等にも繋がる貴重な時間だと思われる。利用者を直接支援する職務や業務はリモートではできない職種であるため、職員各々の仕事に向き合う姿勢や、仕事に対する意欲を評価する。この評価が「育成・評価・処遇」に相互に関連し合あえる仕組みになるよう引き続き取り組んでいく。



(はちみつは、週2,3回1時間程度ウォーキングをします。仲間同士の親交が深まる大切な時間です。)



私たちの大事な仲間の一人が、かねてより病氣療養中のところ令和7年2月28日に逝去されました。福祉作業所に40年以上勤め、その後のはちみつでは、仲間たちをまとめる中心的な存在でした。最期まで私たちに笑顔と元気をくれました。ありがとうございました。ここに生前のご厚誼を深く感謝しご冥福をお祈りいたします。





## 2024年度 事業報告書

発行日 2025年3月31日

発行責任者

社会福祉法人



よつかいどう福祉会

四街道市たかおの杜 15番5号

理事長 金室 修平